

新型コロナウイルスの感染拡大により、あらゆるイベントにも影響が出てきております。お互い気を付けて手洗いなど最低限出来ることは心掛けてゆきましょう。

さて、先日テレビの報道番組で新型コロナウイルス感染拡大に関して考えさせられる意見を聞きました。女性の人類科学専門のコメンテーターでしたが、今回の出来事は発生元が中国武漢で野生のコウモリを食べた人から感染拡大したのではないかとのことで、SARSウイルスの時と同様野生動物の危険性が取り上げられています。一方、今一度地球規模で考えてみた場合、私たち人間も野生動物と一緒にこの地球で生きているいのちの一つであることを見直すいい機会であるのでは？ と問いかけていました。この意見はあらゆる出来事を考える場合常に二面性を秘めているということ私には気付かせるものでした。

この二面性ということは信仰の場でもいえることであろうかと思えます。遠藤周作氏の作品に「沈黙」という小説があります。この

小説からつよく伝わってきたことが「沈黙」という言葉の二面性です。

江戸時代、主人公のポルトガルから当時キリスト教禁制の日本に密国した宣教師が、かくれキリシタンの人々に布教を行って喜ばれるのですが、それもつかの間、役人に見つかりその宣教師の目の前でかくれキリシタンたちが拷問を受けたり、殺されたりしてゆきまです。そのあまりにも残酷で絶望的な状況の中、幾度となく神と対話をする場面があります。「なぜあなたは沈黙しているのか」と。しかしその沈黙が実は自らの救いであったと宣教師が気付かされるころが皮肉にも自分がキリストの描かれた踏み絵を悲痛の中踏んだ時でした。その後の宣教師と神との会話に二面性を伺えます。「主よ。あなたがいつも沈黙していられるのを恨んでました」「わたしは沈黙していたのではない。一緒にくるしんでいたのに」ここに「沈黙」という本のことばに恨みと救いの二面性があります。私はキリスト教徒ではありませんので、教義的な信仰内容はわかりませんが、遠藤氏が伝えた

かったことは、沈黙という言葉をとおしたキリスト教信仰の二面性なのではなかったのか？と思いました。

浄土真宗はこの二面性という視点で聞いてゆきますとわかりやすくなります。まず、仏教の大きな二面性といえば自分の努力精進により成仏を目指す自力聖道門と、阿弥陀仏に完全にまかせ成仏する他力浄土門です。真宗はもちろん後者です。そして、もっとも大切な阿弥陀仏にすべてをまかすときの二つの心があり、一つはこの私は計り知れない昔から生死を繰り返し、まったく成仏の意味すらわからなかった存在であることを深く痛む心と、二つ目はその成仏の意味すら知らずただ生死の中を迷い苦しんでいる私に「南無阿弥陀仏を頼りにしなさい必ず成仏させる」との心に深く頭が下がるこの二つの心が一つになっているところを二種一具といい最も大切にしております。

二つを一つにせしめ、心に救いの喜びをもたらす往生させる力を本願他力と申します。南無阿弥陀仏は二種一具の力そのものです。

合掌

写経と法話会

3月9日(月)14時～ 4月9日(木)14時～「花まつり」

場所 妙蓮寺にて

写経は『仏説阿弥陀経』を少しずつ進めています。(テキスト代 864円税込)

法話会では『正信偈』を少しずつあじわっていきます。

春のお彼岸法要

日時 3月22日(日) 14時～

14時～法要・『仏説阿弥陀経』

14時40分頃～ご法話(30分2席)

講師 柏倉学法師 千葉県真宗寺

※東京教区全域でご活躍の布教使です。

14時50分頃～茶話会(一緒にぼた餅をいただきます。)

場所 妙蓮寺(駐車場有)

※法要中でお焼香を行っていただきます。

※初彼岸の方は過去帳かお位牌をご持参願います。

お問合せ 電話03-6231-4733 090-6340-9040

花まつり

日時 4月9日(木) 14時～

14時～写経

14時20分頃～『正信偈・和讃』

14時50分頃～法話(40分)

講師 妙蓮寺 住職 友岡晃二(釋栄玄)

15時30分頃～茶話会(一緒にケーキをいただきます。)

場所 妙蓮寺